

南奥駈道(行仙岳)↓持経宿(安全点検巡視)

◇ 実施日：平成26年4月12日(土) 晴・うす曇

◇ 参加者：沖崎吉信、畑林秀味、大江加予子。 3名。

車回送者：大江徳子。

☆倒木処理と奥駈道について

- ・ NTT登山口く奥駈道の間接地で母木系倒木を鋸処理。
- ・ 行仙岳く怒田の宿間でブナ(直径30cm)チェンソー処理。
- ・ 倶利伽羅岳手前で杉(直径20cm)一本チェンソー処理。
- ・ 右3本以外倒れた小径木・落枝は無く、鋸の処理必要もなく又、奥駈道にも異常はなかった。

☆次回も課題

- ・ 行仙岳く怒田の宿の間で、昨年程ではないが雨、霜の為、杭・段差材が浮き上がり修復の必要あり。
- ・ NTT登山口と奥駈道合流地点から行仙宿間は未点検。
- ・ NTT登山口から奥駈合流地点の中間地階段手摺にタイガーロープによる通うせんぼあり撤去必要。
- ・ NTT登山口案内板腐食取替え必要。

☆情報

- ・ 国道425号線浦向く白谷トンネル間のカナウナギトンネル上手で工事が開始されました。

H26年4月7日く6月末日(日曜・祭日のみ規制なし)

規制の時間帯 8時30分く10時、10時30分く12時

13時く15時、15時30分く17時です。

- ・ 白谷林道の9km地点で間伐作業が開始されました。約6ヶ月間で持経宿方向へ間伐予定の様です。

☆行動タイム

NTT登山口7時35分↓奥駈道合流8時50分↓8時56分
分行仙岳(1266m)9時08分↓9時34分怒田の宿(約1100m)↓11時10分倶利伽羅岳(1252m)(昼食)12時05分↓12時40分転法輪岳(1281m)12時50分↓13時07分平治宿(約1180m)13時17分↓持経宿14時12分↓15時33分池原

☆金剛童子発見(三体目)

当会会員森沢義信氏は、氏の著書「大峰奥駈道75靡」第22靡「持経宿」に金剛童子について記述されている。「持経宿の北側にある、おむすび型の金剛童子は今に残る南奥駈道の唯一のものであるといわれ、岸田日出男は昭和三年九月の南奥駈道の記録の中で「路の左横に小さな金剛童子を祀ってある所に出た。この童子は、上層高さ四寸位、下層一尺の二つの台石を積み重ね上に、南向きに鎮座せらるる高さ一尺の石像である」と述べている。一九七九年「奥駈」七号より。

以前から倶利伽羅岳直下、小さなコルから左折し鎖場となっている所を直進して迷った話が何回かあって、今回代表からもこの場所に道標の設置の話があった。

標識を準備し標柱は現地で倒木か間伐材を利用することに

した。

当日11時過ぎ俱利伽羅岳に着き、早速その設置にとりかかる。先ずは標柱の確保である。コル上の小さなピークに適当なのがありそうだ、距離もなく踏み跡もあって30〜40秒でそのピークへ。ちょうど良いのがあって1本頂いた。帰路方向に振返った時左手に「金剛童子」ではないか、直ぐ畑林、大江さん呼び、手を合わせた。台座にお供えされた様子もなく、碑伝も一枚もない。

この存在を知る者はいない様だ、いつ置かれたものか判らない、何十年か何百年か感動ものである。

一昨を行仙宿上手に続き、今回で三体目となる。

昨年も瀧本昭太郎氏が蘇莫岳で石碑を発見された。皆んなが興味を持って四体目、五対目も発見できるであろう。

奥駈道、小屋同様に大切に大目に見守りたい。

☆ その外感想

今回NHK和歌山の斉藤記者が同行予定も急遽キャンセルで三人での点検山行となった。天候に恵まれ特に千年檜手前など、所々から見える空の青さ、山の緑と点々と咲くコブシの白のコントラストは、すばらしいものであった。

本日で本宮く前鬼間の点検は終了した。ご協力頂いた皆さんに感謝申し上げます。

特に、本日積極的に回送を申し出頂いた大江徳子さん、本日所要で参加出来ないが、チェンソーを態々自宅まで届けて頂いた松本板金・松本吉殖氏にお礼申し上げます。(記：沖崎)



行仙岳にて



行仙岳く怒田の宿間のブナ倒木処理



俱利伽羅岳で見つけた金剛童子！



俱利伽羅岳直下に道標設置